

## 令和7年産(6年播種) 麦類生育概況

長野県農業試験場 作物部

調査月日	項目	大麦:ファイバースノウ			小麦:しろゆたか		
		平年*1	令和6年(播) ~7年(産)	平年比	平年*2	令和6年(播) ~7年(産)	平年比
出芽揃い期	出芽数 本/m <sup>2</sup>	156	185	119%	169	201	119%
越冬前 (12月16日)	草丈 cm	11.5	14.1	122%	13.9	15.2	109%
	茎数 本/m <sup>2</sup>	354	812	229%	616	987	160%
	葉数	3.7	5.2	+1.5	5.1	5.2	+0.1
越冬後 (3月6日)	草丈 cm	12.3	17.1	139%	17.4	17.8	102%
	茎数 本/m <sup>2</sup>	794	1572	198%	1288	1573	122%
	葉数	6.6	7.5	+0.9	7.5	7.3	-0.2
(3月15日)	草丈 cm	15.8	17.5	111%	20.3	18.4	91%
	茎数 本/m <sup>2</sup>	913	1188	130%	1263	1423	113%
	葉数	7.6	8.4	+0.8	8.5	7.7	-0.8
幼穂形成期 茎立期		2月27日	2月28日	+1	3月1日	3月3日	+2
		3月27日	3月23日	-4	3月25日	3月19日	-6
出穂期		4月27日	4月25日	-2	4月28日	4月29日	+1
成熟期		6月5日			6月13日		
成熟期	稈長 cm	94			84		
	穂長 cm	4.7			8.4		
	穂数 本/m <sup>2</sup>	452			648		
収量	子実重 kg/a	69.6			68.6		
	容積重 g/l	696			799		
	千粒重 g	38.4			43.2		

\*1 大麦の平年値は過去7年間に於ける収量最大年と最小年を除いた5カ年の平均値。

\*2 しろゆたかは令和3~令和6年産の4年間の平均値。

## &lt;耕種概要&gt;

栽培様式: 条間30cmドリル播

播種期: 令和6年10月22日 播種量: 7kg/10a

基肥窒素量: 6kg/10a

茎立期追肥窒素量: 2月26日 3kg/10a

止葉展開期追肥窒素量: 大麦4月16日 小麦4月25日 N2kg/10a

## &lt;生育概況&gt;

出芽揃い期 播種後、高温で推移し、大麦、小麦ともに出芽数は平年比119%と良好であった。

越冬前 草丈、茎数、葉数ともに平年より前進している。11月~12月1半月が期間を通じて高温であったことから生育が進んだと考えられる(11月の平均気温は平年値が7.5℃、本年が9.3℃)。

越冬後 3月6日時点の平年対比では、大麦は草丈は長く、茎数は多く、葉齢は進んでいる。小麦は草丈はやや長く、茎数は多く、葉齢はやや遅れている。1月が高温傾向であり、降雪が少ないことから根雪期間はほぼみられず、越冬後も生育が進んだと考えられる。

3月14日時点の平年対比では、大麦では草丈が長く、茎数は多く、葉齢は進んでいる。小麦では草丈が短く、葉齢は遅れている。茎数は茎立ちおよび無効分げつの退化が始まり、減少に転じている。

幼穂形成~茎立期 幼穂形成期は平年より大麦で1日、小麦で2日遅かった。大麦では越冬前後の生育は前進傾向であったものの、2月の気温が平年より低温傾向であったことから、大麦、小麦とも幼穂形成期は早まらなかったと考えられる。

茎立期は平年より5日程度早かったが、これは3月中下旬の気温が高温傾向であったことから、生育が進んだと考えられる。

出穂期 4月は気温が平年並~やや高く推移し、出穂期は大麦では平年より2日早く、小麦は1日遅くなり、概ね平年並となった。

(別表) 気象経過

長野アメダスデータより

